

令和7年度 市岡中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日	生徒数 (人)	平均正答率(%)				平均無解答率(%)	
		国語	数学	国語	数学	理科	
3年 4月17日	学校	145	52	40	6.6	9.7	468
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	489
	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日	生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)					
		国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語	
3年 9月2日	学校	144	64.3	50.9	49.4	42.5	50.0	5.2	4.9	11.6	7.9	9.7
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はA問題を選択

令和7年度 市岡中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

〈国語〉全国と比較して、「思考力、判断力、表現力等」について「書くこと」の領域において、-2.3ポイント、「話すこと・聞くこと」の領域において-5.8ポイント、「読むこと」の領域において、-0.2ポイントと、いずれの領域においても下回る結果となった。一方、「知識及び技能」については、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は+1.6ポイントと上回った。また、無回答率については平均6.5%と、全国の6.6%よりも少なく、解答しようとする意欲の高さは見て取れる結果となった。

〈数学〉全国と比較して、「数と式」の領域において-7.6ポイント、「図形」の領域において-8.7ポイント、「関数」の領域において-7.6ポイント、「データの活用」の領域において-10.7ポイントと、いずれの領域においても大きく下回る結果となった。ただし、無解答率は全国と比較して少ない問題が多く、解答しようとする意欲の高さは見てとれる結果となった。

〈理科〉本校の平均IRTスコアは468、大阪府は487、全国は503であり下回ってしまった。特に記述形式の問題を含む「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が低かった。しかし、大阪府や全国と比べて無回答の問題はほぼなく、選択式・短答式の問い(元素記号や消化に関する物質など)は大阪府や全国の正答率よりも高かった。

【今後に向けて】

〈国語〉「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」における正答率を上げるために、漢字の小テストを実施し、定着を図る。

「読むこと」「書くこと」の領域における正答率を上げるために、授業の中で、生徒が主体的に本文を読みながら答えや根拠を探す練習や、表やグラフと文章を結びつける練習などに取り組む。

〈数学〉基礎を見直すために、1年から3年1学期の内容までを夏休みの課題とし、振り返る機会をもうけている。また、授業においては、一人で解くだけではなく数人で学びあう時間をとることで、お互いの理解を深められるようにして、解答しようとする意欲の高さを正答率につなげられるように努める。

〈理科〉無回答がほとんど無く、選択式・短答式の問いの正答率が高いことから意欲的に取り組むことができている。今後は実験中の動作の意味や危険性などを教えるだけでなく、自分で答えを導き出せるような取り組みや、グループ活動、発問を増やしていくなど、生徒の意欲的な部分を刺激しながら「思考・判断・表現」を伸ばしていきたい。

令和7年度 市岡中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜国語＞平均点の対府比が64.3(+0.1)ポイントであり、昨年度の対府比に下回る結果となった。「思考・判断・表現」においては0.3ポイント、「知識・技能」においては0.1ポイント、府の平均点をわずかに上回ることができた。

＜数学＞平均点の対府比が0.92(-4.5)であった。「数と式」の領域において+0.1ポイント、「図形」の領域において-1.9ポイント、「関数」の領域において-1.5ポイント、「データの活用」の領域において-1.2ポイントと、3つの領域において下回る結果となった。ただし、無解答率は+0.5であり、解答しようとする意欲の高さは見てとれる結果となった。

＜理科A＞大阪府の平均点48.1点に対して本校は42.5点であった(-5.6点)。どの観点においても大阪府の平均を下回っているが、問題形式別にみると「記述式」の部分が-0.1点とほとんど差がなかった。今後はいずれの領域や分野においても、定期的に復習や家庭学習を行い全体的に知識の定着を徹底する必要がある。

＜社会＞平均点の対府比が0.99(-0.3ポイント)であった。分類別にみると、「歴史的分野」においては大阪府の平均よりも下回ったが、「地理的分野」においては大阪府の平均を上回る結果となった。

「短答式」「記述式」問題では大阪府の平均よりも下回る結果となったので、歴史的分野を中心に、復習プリントやデジタルドリルに取り組みさせていきたい。

＜英語＞大阪府平均が53.2ポイント、本校の平均が50.0ポイントで、-3.2ポイントであった。どの項目においても、大阪府平均より低かった。特に長文読解が苦手な生徒が多かったので、語彙力を身につけさせつつ、英語の文章を読む習慣をもっとつけるべきであった。また、空所に正しい語を入れる文法問題も苦手な生徒が多かったので、文法の理解をもっと深められるような授業展開を考えることが必要だと考える。

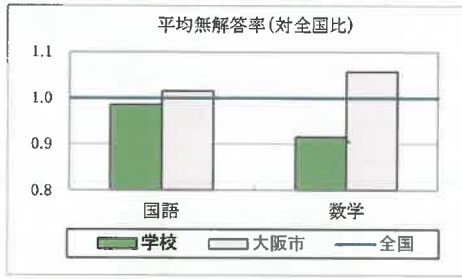
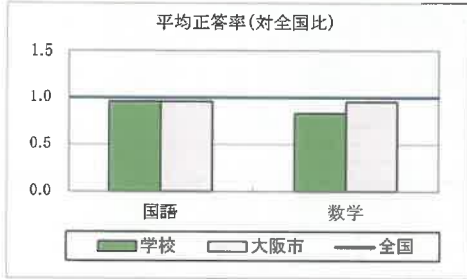
令和7年度 市岡中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【全体】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	52	40
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	6.6	9.7
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

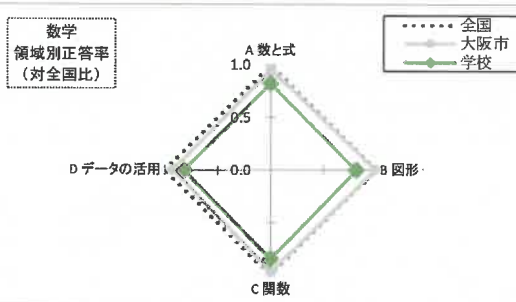
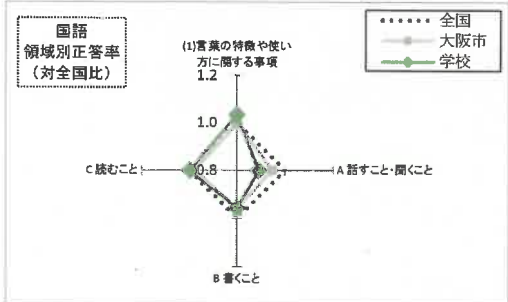
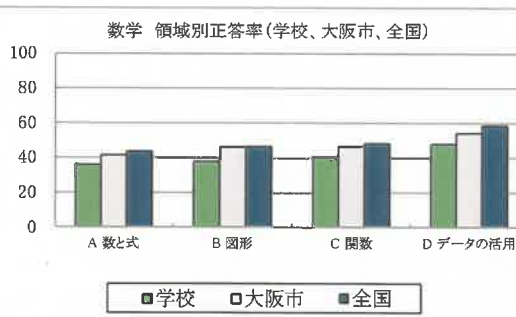
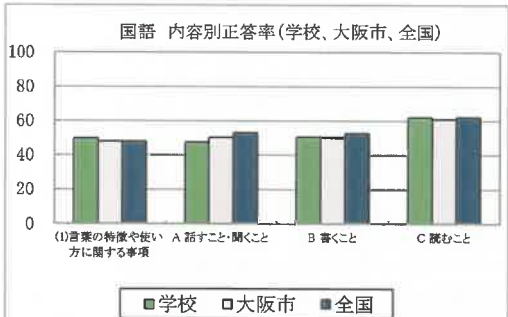


【国語】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	49.7	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0	/	/	/
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	/	/	/
A 話すこと・聞くこと	4	47.4	50.4	53.2
B 書くこと	5	50.5	50.6	52.8
C 読むこと	3	62.1	61.0	62.3

【数学】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	35.9	41.4	43.5
B 図形	4	37.8	46.1	46.5
C 関数	3	40.6	46.6	48.2
D データの活用	3	47.9	54.0	58.6

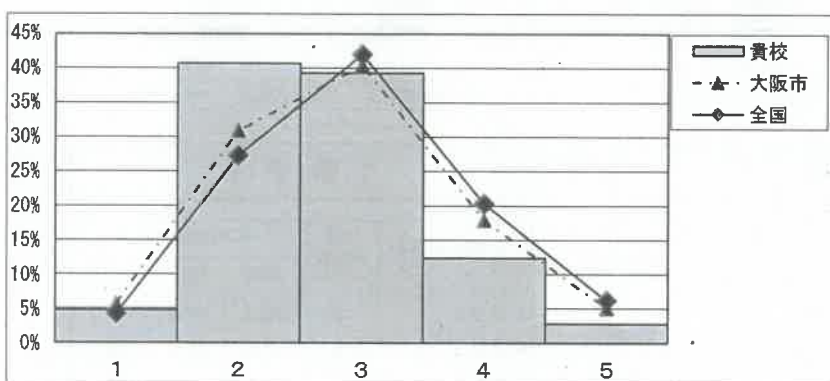
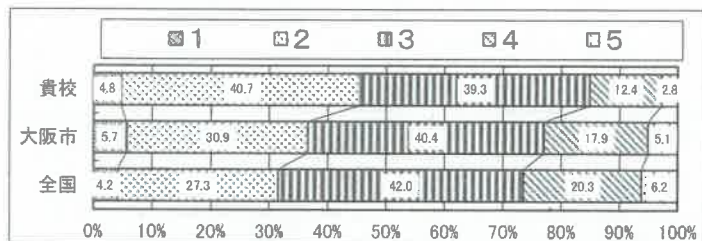


令和7年度 市岡中学校のあゆみ
 —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理科】

	平均IRTスコア
学校	468
大阪市	489
全国	503

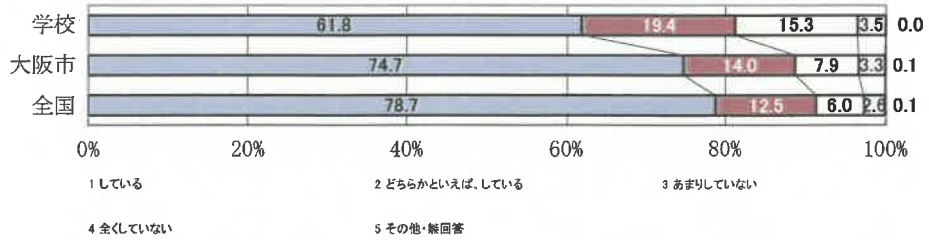


令和7年度 市岡中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

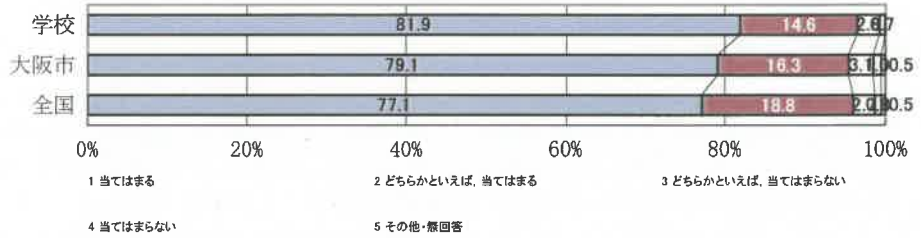
生徒質問より

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8

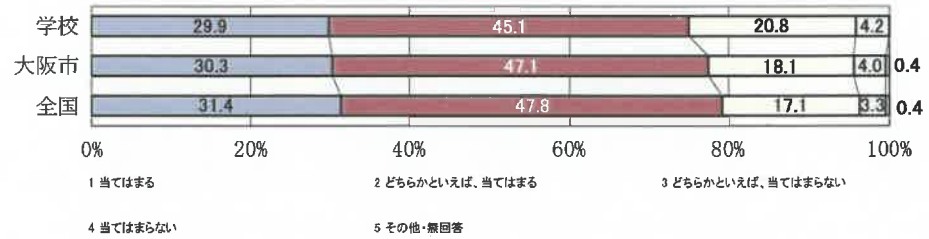
質問番号
質問事項
1
朝食を毎日食べていますか



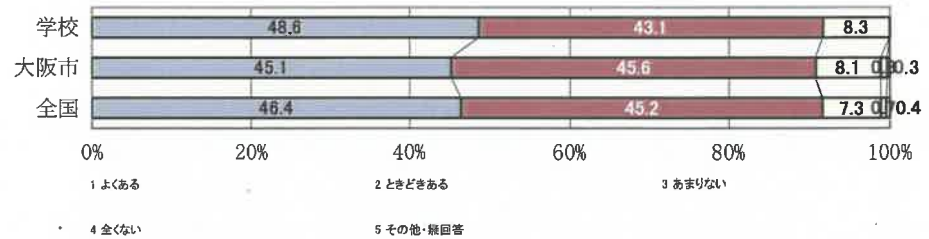
9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



13
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



15
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



16
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

